

# 「公共事業コスト構造改革プログラム」

【 施策名： (2) 計画・設計から管理までの各段階における最適化 】

## 膜分離活性汚泥法の導入（新技術の活用）

### 概要

膜分離活性汚泥法は、従来の活性汚泥法による最終沈殿池において行われた固液分離を、微細な孔径（通常 $0.1 \sim 0.4 \mu\text{m}$ ）を有するろ過膜で行う技術です。従来の活性汚泥法に比べ、次の特徴があります。

- 沈殿池、消毒施設の省略が可能
- 余剰汚泥は反応タンクから直接引き抜いて脱水することが可能
- 標準活性汚泥法に比べ短時間での処理が可能

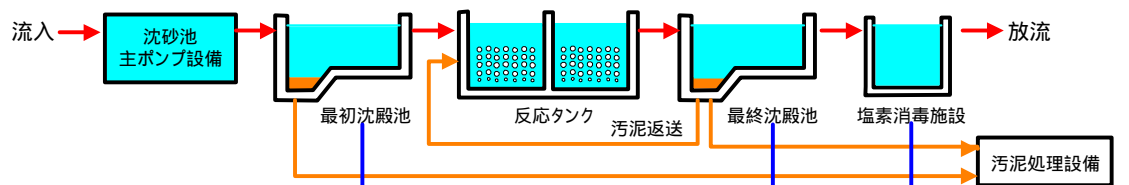
### 効果

短い滞留時間で、硝化・脱窒による窒素除去が可能で、沈殿池、消毒施設の省略が可能。そのため**施設がコンパクトとなり、敷地面積の縮小が可能。**

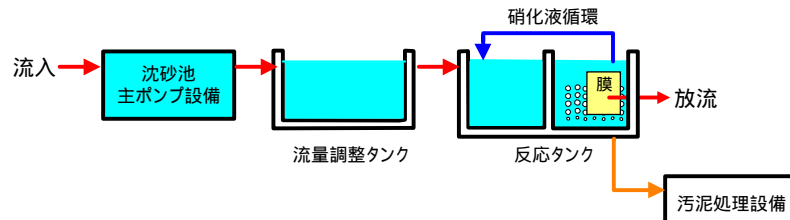
再構築時には、**既存処理施設を有効活用して、処理性能を向上させることが可能。**

小規模の処理場では、**建設費で約10%のコスト縮減。**

従来の活性汚泥法

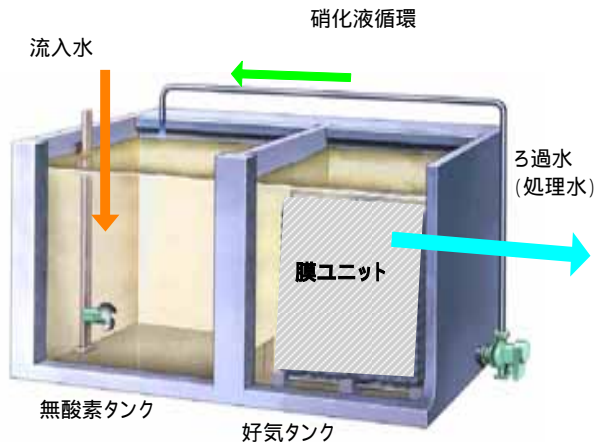


膜分離活性汚泥法



従来の活性汚泥法との比較

施設不要  
用地がコンパクト化！



膜分離活性汚泥法